

本校は創立77年の伝統を基盤に、学校スローガン「挑戦は成長への第一歩」を掲げ、校訓である「努力・信頼・継続」を大切にしながら、高い理想をもち、人間性豊かで平和な未来を切り拓く人材の育成を目指して、教職員が一丸となって取り組んできた。

今年度の重点目標と方策については、結果を検証し、反省・改善を加えたうえで次年度へ反映させ、今後も生徒が主体的に成長できる学校づくりを推進していく。

Ⅰ 数値目標

【評価】

(1) 学力を伸ばすための指導がなされているか

項目	数値目標	7年度結果	R6	R5	R4
1 学力を伸ばすための指導がなされているか 肯定意見	100%	97%	89%	91%	82%
2 学校生活の満足度 肯定意見	100%	93%	84%	77%	68%
3 朝学習の取り組み 肯定意見	100%	68%	43%	46%	43%
4 各種検定資格取得	50%以上	53%	48%	23%	35%
5 三宅村小・中学校との連携が図られているか 肯定意見	90%以上	90%	79%	83%	70%
6 希望進路の実績	100%	100%	100%	100%	100%
7 部活動や行事満足度	100%	86%	78%	79%	65%
8 健康安全に対する指導満足度	100%	97%	94%	94%	83%
9 保護者・地域への情報発信	95%以上	90%	78%	85%	82%
10 施設・設備への取組	90%	67%	72%	71%	80%

回答結果において、約1割が肯定に至っていないことから、授業改善や学習方法の指導、取組内容や成果の見える化を進めることで、生徒の学習理解を深め、肯定的な回答が一層高まるよう継続して取り組む。

(2) 学校生活の満足度

学校生活における安心感・所属感・自己有用感が一部で十分でなく、生徒数の少なさから行事・部活動・施設設備などの環境要因の影響を受けやすいことが、満足度低下の要因として考えられる。次年度は日常の安心感や所属感を高めつつ、少人数校の特性に合わせて行事・部活動の負担調整と施設改善を進め、学校生活の満足度向上を図る。

(3) 朝学習の取り組み

朝学習については、朝学習については、教材内容・時間設定・指導体制など運用面の統一と、目標や目的及びその効果を明確化した上で、組織的に取組むことが必要である。

(4) 各種検定資格取得

一部の資格取得については、東京都からの補助により受検しやすい環境が整っている。今後も受検機会や費用等の情報を丁寧に周知するとともに、合格に向けた準備や計画、動機付けをしっかりと指導し、資格取得率の向上を図っていく。

(5) 三宅村小・中学校との連携が図られているか

一貫教教育研究協議会、出前授業、学校説明会、入試前面接練習、持久走大会、合同音楽会・作品展等の取組をとおして、概ね理解されている。今後も児童・生徒を真ん中に島の宝を育成する取組を推進していく。

(6) 希望進路の実績

学年及び進路指導部がそれぞれの役割を明確にし、連携してきめ細かな指導を行った結果、生徒全員が希望する進路先に決定することができた。次年度においても、生徒が「希望する進路先」と「行きたい進路先」とが一致するよう、組織的かつ系統的な進路指導を継続していく。

(7) 部活動や行事満足度

部活動や行事において一定の満足度は得られているものの、少人数による実施形態、行事への負担感、部活動の選択肢などの課題があり、満足度 22%を下げる取組が課題である。次年度も、生徒の声を尊重しつつ、行事への参画や実施形態の改善を図りながら運営していく。

(8) 健康安全に対する指導満足度

保健講話の実施や保健だよりの発行に加え、熱中症警戒情報や感染症情報の掲示を行い、生徒に健康に関する情報を適切に伝達し、安全管理に対する意識を高めることができた。

(9) 保護者・地域への情報発信

学校だより、ホームページ、X(旧ツイッター)等を通して日頃の教育活動を定期的に発信したが、SNS等を利用できない方への情報提供の在り方は今後の課題である。

(10) 施設・設備への取組

日常的な維持管理に取り組んでいるものの、校舎全体の老朽化が著しく進行しており、教室、廊下、特別教室、農場施設・設備など、学校施設のあらゆる箇所で深刻な劣化が見られる状況である。これらの老朽化は、教育活動の円滑な実施に直接的な支障をきたしており、安全面・衛生面においても看過できない課題となっている。特にトイレについては設備の劣化が顕著であり、早急な改修が必要な状況であるため、今後、本庁と協議を進め、速やかな改善に向けて対応を図りたい。

2 今年度の重点目標に対する評価

(1) 組織的・計画的な進路指導を行い、生徒の希望する進路を実現させる。【進路指導】	
3年間を見通した進路計画の立案・提示・説明。	年5回の進路ガイダンスの実施や個人面談や三者面談を通して進路に関する情報提供を計画的に行った。
島内企業経営者を招いた進路説明会。	次年度実施予定。
基礎学力テストや外部模試の結果分析会。(各学期末校内研修)	ケース会議にて基礎学力テストや外部模試の結果分析について教員間で情報共有した。また、学習アプリの活用や学校選びのポイントについて教員研修を実施した。

1年生移動教室(インターンシップ)の実施。	企業選びとマナー講習を経て2日間のインターンシップを滞りなく実施することができた。
生徒一人一人の進路を実現させるため、夏期講習、放課後の補習、講習(大学受験同好会)等の個別指導を実施する。	夏期講習(今年度は13講座)、放課後学習の補習、同好会の活動などを通して一人一人の進路活動に寄り添った指導を実施することができた。
(1) 組織的・計画的な進路指導を行い、生徒の希望する進路を実現させる。【進路指導】	
保護者対象進路講演会。	保護者会を通して進路指導部より進路情報の提供を行った。
生徒の進路第一志望を実現させるため、学習指導・礼節指導等を徹底する。	生徒の希望する進路に応じて面接指導や書類作成の指導、教科指導を個別に計画し、実施した。
進路に関する公文書(調査書・推薦書)を発行する際、複数確認・点検を行い、事故を起こさない。	進路主任と学年担任団でその都度確認し、点検を行った。
(2) 基礎・基本の確実な定着と学力の向上を図る。【学習指導】	
カリキュラムポリシーに基づき、確かな学力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力)を育成する。	カリキュラムに基づき、知識・技能と思考力の育成を進め、授業改善を重ねることで生徒の基礎学力の定着が図られ、学びの質向上につながった。
考えさせる授業、「納得解」を導びだす主体的・対話的で深い学びの実践を図る。	生徒が考えを深める発問や対話活動に取り組み、学習過程への主体的参加を促す授業が徐々に定着している。
「わかる授業」「学びたくなる授業」を実践するため、教員の授業力向上を図る。	相互授業観察後の授業改善を継続し、互いの授業を支え合う文化が生まれ、分かりやすい授業づくりに向けた教員の意識向上が図られた。生徒のアンケートからも授業の肯定的評価は100%であった。
課題、外部教育プログラム(スタディサプリ)等を活用して、自学自習を習慣化させる。	授業や朝学習や放課後学習、到達度テストを通してスタディサプリを活用した学習の習慣化に努めているところである。
GAP、HACCP 教育における工程管理学習の充実を図る。	GAPの更新審査及びHACCPに準じた食品衛生管理の指導を行った。
きれいな教室、農場、特別教室(被服・調理室含む)等を心掛け、学習環境の場を整える。	国産木材を使用した什器を導入し、生徒の学習環境の改善に努めた。また農場の環境整備を推進した。
主体的な研究、発表等を取り組ませ、学校農業クラブ、学校家庭クラブの充実を図る。	農業クラブ意見発表会の指導や、農業鑑定競技の学習指導及び全国大会に出場した。

教育の DX 化を推進し、すべての授業において、一人一台端末を活用した授業を行う。	ICT を活用した授業が定着し、資料共有や個別学習の充実が進んだことで、生徒の学ぶ姿勢と理解の深まりに良い変化が見られた。
家庭学習の代替として、週に2~3回放課後寺子屋学習を行う。	週1回の放課後学習、考査前1週間の放課後学習を実施した。
(3) 生活指導、健康教育の充実を図る。【生活指導・保健指導】	
社会で必要とされる基本的なマナー（挨拶励行・身だしなみ・時間厳守等）を身に付け、規範意識を向上させる。	生徒とコミュニケーションを図ることにより、生徒の状況把握を丁寧に行った。また、SHR や授業の中で規範意識の向上を意識した指導を行った。
セーフティ教室、薬物乱用防止教室等の行事を通して、情報モラルの習得、生活安全に関する教育を行い、生徒が被害者にならないように努める。	外部人材を活用し、セーフティ教室、薬物乱用防止教室を適切に実施することができ、生徒に被害者は出ていない。
いじめの未然防止指導を徹底し、いじめに対しては早期発見に努め、早期対応の指導を行う。	教育相談委員会を活用し、教職員間で情報共有を行うとともに、生徒の状況把握を密に行い、いじめ等の未然防止に努めた。
「TOKYOACTIVE PLAN for students」に基づいて体力向上を図り、心身の健康づくりを一層推進する。	授業内でICT機器を活用し、デジタル技術を活用した体育的な活動の充実や、一人一人の意欲を引き出すことができるようニュースポーツを実施し、健やかな体を育むための取組を充実させた。
健康に関する講話、保健たよりの発行、掲示等を行い、健康に関する知識と意識を高める。	保健講演会の実施や保健室前に季節に合わせた保健ニュースを掲示し、生徒たちが健康について興味を持ち、自ら高められるような働きかけを行った。
(4) 自ら学ぶ姿勢、探究心をもち、ワンランク上の資格取得を目指す。【資格取得・探究学習】	
全生徒が、在学中に英語検定、漢字検定又は数学検定準2級以上を受験し、合格を目指す。	全生徒が検定に挑戦する環境を整え、学習への意欲向上を図った。受験を通じ、自身の力を確認し成長につなげる機会が得られ、学習意識の向上に確かな成果が見られた。受験した生徒のうち、合格者は5割を少し超える人数だったので、さらに合格者を増やす。
資格取得の指導を計画的に行い、情報に関する検定、農業技術検定3級、被服製作・食物調理技術検定3級を受験し、合格を目指す。	計画的な指導により受験機会を確保し、必要な技能の習得を丁寧に支援することで、全員を合格させた。生徒が専門的技術に挑戦する姿勢を育み、技術向上に向けた学びの継続が実現できた。

専門科目、総合的な探究の時間において、探究学習を推進する。	探究的な学習を通して、課題の発見・調査・まとめ・発表の一連の流れを経験させ、主体性の育成を図った。生徒の思考力や表現力の向上につながる実りある取組となった。今後はさらに三宅島に特化した探究にしていきたい。
(5) 三宅村保小中高一貫教育の推進を図る。【地域連携】	
生徒の学習活動を活かした地域貢献活動や地域における探究活動を推進する。	保・小・中・高一貫教や中学校への出前授業を実施した。総合的な探求の時間において、島内の文化について研究し、地域理解をより深めることができた。
伊ヶ谷老人クラブ、三宅村商工会女性部との連携を図り、花壇植栽を実施する。	三宅島空港及び伊ヶ谷コミュニティセンターにおいて、年2回外部機関と連携を図って花壇植栽を実施し、地域の方々から高い評価を得た。
三宅島保・小・中学校との連携を図り、食材の提供、農業実習を行い、本校理解を高める。	特色ある併合科の活動を保・小・中の教員共有する機会を設けた。芋ほり体験活動の実施により、学校間の連携を深めた。
一貫教育推進委員会を活用し、教員の授業力向上、生徒の学力向上の方策を充実させる。	委員会を通して学力向上策を共有し、教員の授業力向上に向けた取り組みを進めた。校種間の連続性ある学びの実現に向け、協力体制が強化された。
中学生とその保護者対象の学校説明会・体験授業、部活動交流、中高合同検定試験の実施等により中学校との連携を推進する。	農業科・家政科の体験入学参加者が昨年より増加し、より多くの中学生に三宅高校の魅力を伝えることができた。
小中高合同持久走大会、保小中高合同作品展に向けた準備を計画的に行い、実施する。	持久走大会及び合同作品展を各園校と合同で実施し、小中との連携教育の推進が図れた。
保健相談・特別支援教育情報交換会を定期的に行い、生徒の支援・自立に向けた指導を図る。	各機関と情報共有を継続し、支援の方向性を揃えることで、生徒の困り感に応じた一貫した支援が可能となり、安心して学べる環境づくりに繋げた。
(6) 避難訓練・防災訓練等とおした防災安全教育の推進。【安全教育】	
自然災害及び不審者対策に備え、年間4回の避難訓練、地域との連携訓練を組織的・計画的に実施し、危機管理意識を醸成する。また、登下校時・校外学習時等における防災意識を醸成する。	年間4回の避難訓練・地域との連携訓練を計画的に実施し、生徒の危機管理意識を高めることができた。実践的な訓練により、安全確保の判断力向上に一定の成果を得た。

施設設備の再点検を行い、効果的な整備計画を作成する。	定期的に点検を行い、安全上の課題を把握し改善の見通しを立てた。老朽化が進む状況下でも、可能な範囲で環境維持に努め、安全確保に向けた意識が向上した。
防災用品備蓄倉庫の整備及び防災用品の充実を図る。	防災用品の補充と管理を適切に行い、災害発生時に備えた体制整備を進めた。非常時に必要な物資の確認を徹底し、学校全体の防災意識を高めることができた。
(7) いじめ・体罰、不適切指導の未然防止を図る。【生活指導・学校経営】	
いじめ未然防止指導を徹底する。日頃から複数の教職員の目で生徒の状況を観察して、異変に気づいたらすぐに報告する組織体制をつくる。	日常的な観察と情報共有を徹底し、生徒の小さな変化を見逃さない体制が整った。安心して学校生活を送れる環境づくりに向け、組織的な取り組みが効果的に行われた。今年度のいじめは0であった。
体罰、不適切指導はしない。また、体罰、不適切指導が起きないように校内研修会を行う。	校内研修を3回実施し、教職員の意識向上を図ることで、不適切指導防止への理解が深まった。研修をすることで日常の指導を振り返る機会となり、安全な教育環境の維持に貢献した。
(8) 三宅高校の教育活動を島内外に広くPRし、積極的な広報活動を行う。【地域貢献・本校理解】	
学校開放・公開講座・ボランティア活動・図書的一般貸し出し等により、地域貢献を推進する。	公開講座3講座に加え、生徒のボランティア活動や施設開放など、地域貢献することができた。学校評価アンケートにおいても地域貢献の期待が高い。
三宅島の発展につながる島内のイベントに参加・協力・貢献する。また、GAP 認証を広め、農産物等の販売を促進する。	JGAP 更新審査が完了し、継続して取得する事ができた。港販売や、校内の収穫祭及び苗販売で地域に魅力をPRすることができた。
(9) 国際交流、国際理解教育を推進し、グローバルな人材育成を図る。【国際理解】	
海外派遣研修外部人材を活用した講演会等を計画、実施する。	イスラエル、韓国の高校と連携して、文化紹介、生徒間の国際交流を実現することができた。次年度も引き続き、生徒間の国際交流ができるよう関係各所と連携していく。
海外学校間交流校の指定を受け、海外の高校との生徒間の交流を実現する。	海外学校間交流指定校として、アラブ首長国連邦への派遣研修及び生徒同士の国際交流を実現させ、生徒の視野を広げ、グローバル人材の育成に寄与した。

国際交流事業を推進するため、三宅村、三宅小・中学校との連携をより強化する	英語検定試験を中学校と合同で実施し、一定の成果を上げることができた。連携行事については内容を精査するとともに、その成果を検証し改善を図っていく。
(10) 特別支援教育、インクルーシブな教育の推進及び教育相談の充実を図る。【特別支援教育】	
特別支援委員会を定期的開催し、情報共有を行い、多様な生徒へ適性な支援を行う。	定期的な情報共有を行い、生徒の特性理解を深めることで、個に応じた支援を組織的に行う体制を維持できた。学校全体で支える環境づくりに繋がった。
スクールカウンセラーと連携した特別支援教育や個別指導の充実を図り、生徒の支援を行う。	SCと連携し、心のケア体制を充実させた。生徒が相談しやすい環境づくりが進み、精神的な安定を支える支援として効果的に機能した。
生徒が気軽に相談できる雰囲気作りを進める。	日常的な声かけを重ね、相談しやすい雰囲気を丁寧につくったことで、生徒アンケートにて95%が「相談しやすい先生がいる」と回答。生徒の安心感が向上した。悩みを早期に把握する体制の強化につながった。
担任面接等を通して、教育相談活動を充実させ、生徒の心の安定を図る。	各学年での面談に加え、SCによる生徒全員面談を実施し、生徒の状況把握と心の安定を図った。引き続き相談しやすい環境づくりを推進していく。
配慮や支援が必要な生徒に対して、個に応じた取組を組織的に行う。	学年・分掌で連携し、多様な生徒に応じた支援を計画的に実施できた。学校全体で支援する体制が強化され、継続的なフォローが可能となった。
通級指導は、全ての教員が指導できるように校内研修や体制を組織的に構築するとともに関係機関との連携を図る。	スクールカウンセラーによる教員対象の校内研修を実施した。引き続き学校全体で特別支援教育への理解を深め、通級指導の要請にも即対応できる支援体制を整備する。
(11) 安定した学校経営・組織体制を構築する。【学校経営】	
(1) 職員のライフワークバランス	
夏期休暇取得率100%、年休取得クリア15日、トライ20日を目指す。	休暇取得を促進し、働きやすい職場づくりを意識した取り組みを継続した。業務調整を進めることで、教職員の心身のリフレッシュが促され、働く意欲向上につながった。
誰もが働きやすいといえる環境を目指し、互いのコミュ	日常的な情報交換を重ね、教職員同士の信

ニケーション力を高める。	<p>頼関係が強まり、協働しやすい環境が整った。組織としての一体感が高まり、学校運営の安定に貢献した。</p>
(2) 教職員としての「プロ」意識をもち、資質向上を図る。	
職層に応じた職責を果たし、「生徒が主語」になる学校となるよう、自身の能力を高める。	<p>各職層が役割を意識して行動し、学校の目標達成に向けた主体的な取り組みが進んだ。少人数である本校の特性を生かし、生徒が主語の学校づくりに向けた資質向上の意識が浸透した。</p>
三宅高校で働く仲間全員が、「生徒のため」「保護者のため」「地域のため」に何ができるのかを考え、帰属意識を高める。	<p>教職員に常に呼びかけることに「生徒・保護者・地域のためにできること」を考える姿勢が広まり、学校への帰属意識が強化された。組織としてのまとまりが向上した。</p>
クリーンデスクの徹底、ペーパーレス、ICT 活用を通じた業務削減、サービス事故ゼロを継続する。	<p>整理整頓やペーパーレス化を推進し、業務の効率化と事故防止への意識が高まり、サービス事故は0である。ICT 活用が浸透し、働きやすい環境づくりが進んだ。</p>
(3) 経営企画室	
生徒の学習環境や条件を良好な状態に維持できるよう、自律経営推進予算の効果的な執行、施設設備の適正な管理を行う。	<p>予算を適切に執行し、教育環境を維持する取り組みを進めた。老朽化への課題は残るものの、可能な改善を重ね、安全な環境確保に努めた。</p>
学校徴収金等の納入を適切に管理し、延滞者や未納者をゼロにする。	<p>丁寧な周知と確認作業を徹底し、未納防止に取り組んだ。正確な管理体制が維持され、保護者との信頼関係を損なわない安定した運用が実施できた。</p>
(4) その他	
施設設備の改築、改修、特別支援教育の校内体制を強化するため、定期的に委員会を開催し、組織的に取り組む。	<p>委員会を通じて課題を共有し、計画的な検討を進めた。安全面の課題に向き合う取り組みが継続された。</p>
定期的な校内研修を実施し、個人情報紛失事故の根絶等法令を遵守し、サービス事故を起こさない。	<p>校内研修を重ね、個人情報管理や法令遵守の意識を高め、サービス事故ゼロを維持した。教職員が基本を徹底する姿勢が定着し、信頼される学校運営に繋がった。</p>
教職員が互いを尊重し、ハラスメントのない職場作りを進める。	<p>互いを尊重する職場環境づくりを推進し、安心して働ける雰囲気醸成された。職員間の信頼関係が強まり、健全な組織文化の形成ができた。</p>

